

## 正誤表（達成状況評価）

08：弘前大学

No.	頁数	誤	正	修正事由
01	p.26	なお、同プログラムの受講有効期間は受講修了年度を含めて5か年度とした。	<u>なお</u> 、同プログラムの受講有効期間は受講修了年度を含めて5か年度とした。	読点が重複していたため。
02	p.49	2017年度入試（2016年度実施）から全学的にAO入試を導入し、小論文試験、実技検査、個人面接、口頭試問、集団討論、模擬講義のレポート課題、出願書類（調査書・志望理由書等）等により、志願者の意欲・能力を学力も含めて多元的に評価する入学者選抜を実施している。	2017年度入試（2016年度実施）から全学的にAO入試を導入し、小論文試験、実技検査、個人面接、口頭試問、集団討論、模擬講義のレポート課題、出願書類（調査書・志望理由書） <u>等</u> により、志願者の意欲・能力を学力も含めて多元的に評価する入学者選抜を実施している。	「等」が重複していたため。
03	p.71	さらに、国内5機関の高度被ばく医療センター間で連携協定に関する協定を締結するとともに、	さらに、国内5 <u>機関</u> の高度被ばく医療センター間で連携協定に関する協定を締結するとともに、	誤字があったため。
04	p.72	被ばく医療総合研究所が、国内5機関とともに共同利用・共同研究拠点として文部科学省に認定され、	被ばく医療総合研究所が、国内5 <u>機関</u> とともに共同利用・共同研究拠点として文部科学省に認定され、	誤字があったため。
05	p.74	国内外機関との連携協定数は、当初目標28件（2021年度までの累計値）が、2019年度末時点で32件の連携協定締結に至り（達成率114%）、共同研究プロジェクト数は41件（達成率233%）、	国内外機関との連携協定数は、当初目標28件（2021年度までの累計値）が、2019年度末時点で32件の連携協定締結に至り（達成率114%）、共同研究プロジェクト数は <u>42</u> 件（達成率233%）、	達成状況報告書（p.69）の記載の数値と齟齬が生じているため。

## 正誤表（達成状況評価）

06	p.126	さらに、キャンパスの国際化の一環として、「イングリッシュ・ラウンジ」を設置し、英語が苦手な学生のために、外国人教員等によるセミナーを開講して補講的な授業を実施し、キャンパスの国際化が推進されことから、小項目の達成に貢献していると判断した。	さらに、キャンパスの国際化の一環として、「イングリッシュ・ラウンジ」を設置し、英語が苦手な学生のために、外国人教員等によるセミナーを開講して補講的な授業を実施し、キャンパスの国際化が推進されたことから、小項目の達成に貢献していると判断した。	脱字があったため。
----	-------	---	--	-----------